



令和5年度 富谷市総合計画審議会

資料 1

『住みたくなるまち日本一』を目指して

～100年間ひとが増え続けるまち 村から町へ 町から市へ～



令和5年11月13日(月) 市役所

富谷市のまちづくり

住民基本台帳人口・世帯(令和5年10月末時点)

1.人口 **52,333人**

男：25,709人 女：26,624人

2.世帯数 **20,370世帯**

○年少人口割合 **16.5%** (県内で最も高い 宮城県平均11.9%)

○高齢者人口割合 **21.7%** (県内で最も低い 宮城県平均28.3%)

※ 令和2年国勢調査人口より

※昭和35年(1960年)の国勢調査から人口増を継続。



2045年将来推計人口 東北6県市区町村唯一の増加

2018（平成30）年3月30日に、国立社会保障・人口問題研究所による2045年までの将来推計人口において、**東北で唯一、富谷市が人口増加の見通し**が示されました。

2045年の将来推計人口が**56,822名**、2015年の人口を100とした場合の2045年の総人口の指数が**110.1**と、**全国で39番目**の指数が示されました。

国立社会保障・人口問題研究所による2045年までの将来推計人口で、東北6県の市区町村では富谷市が唯一、45年の人口が15年の国勢調査時より増える見通しとなった。隣接する仙台市のベッドタウンとして人口が増え続け、16年10月に市制移行した勢いを今後も約30年保つ想定だ。

3月30日発表の推計によると、富谷市は15年人口を100とした場合の指数が45年人口で110.1だった。他は名取市99.9、宮城県利府町97.8、東根市93.7、滝沢市89.8、仙台市85.3など。人口増が続いた地域でも減少に転じると見込まれる中、富谷

45年 市区町村推計人口

仙台隣接 追い風に

市だけ10.1%増となった。若生裕俊市長は、2日に行った新年度訓示で「誇りに思う」と言及。「人口増の実現に向けて、さらに努力しなければならぬ」と述べた。

富谷市は、旧富谷町に町制移行した1963年の人口約50000が2012年に5万に到達。約50年で10倍に拡大し、市町村合併を経ずに市へ昇格した。今年2月末現在の人口は5万2632。今回の推計で示された45年人口は5万6822で、市は60年に6万の目標を掲げる。

若生市長は「子育て環境と高齢者が安心して暮らせる環境づくりを進め、目標を実現したい」と語った。

富谷市東北唯一の人口増

（2018年4月3日 河北新報朝刊より）

富谷市の特産品



ブルーベリー

ブルーベリーが水田と同じ酸性土壌を好むことから、**水田の転作**として**1983（昭和58）年**に栽培を開始。

安全安心を優先し、**無農薬**で栽培される富谷市のブルーベリーは、宮城県から**農薬不使用・化学肥料節減栽培農産物**に認証され、高い評価を受けています。

2016（H28）年開催の「伊勢志摩サミット」で、G7首脳の食事の場に提供されました！！

富谷市ブルーベリー生産組合では生パック、ジャムのほか、ジュース、ゼリー、黒酢など様々な商品を開発・販売しています。



宮城県最古の造り蔵



市内にある「**内ヶ崎酒造店**」は、1661（寛文元）年 二代目作右衛門の創業以来、**350有余年**、**県内屈指の歴史と伝統**を誇る、造り酒屋です。



宮城の地酒 鳳陽（ほうよう）

新たな特産品へ とみやはちみつプロジェクト

市役所屋上にて、2017(平成29)年より「**とみや はちみつプロジェクト**」を実施しています。ミツバチは環境指標生物としても位置付けられ、ミツバチが元気に生育する地域は、**人間にとっても住みやすい環境**であるといえます。市役所屋上で採れた蜂蜜は、市内スイーツ店へ提供され、**とみやスイーツ**などで味わうことができます。



一般社団法人日本はちみつマイスター協会主催

第6回ハニー・オブ・ザ・イヤー

はちみつ資格取得者・はちみつ好きが選ぶ、
最もおいしいはちみつコンテスト



【日本ミツバチ部門】
最優秀賞
来場者特別賞
NPO法人SCR

【国産部門】
ベスト3
優秀賞
とみやはちみつ
プロジェクト 

第6回ハニー・オブ・ザ・イヤーの日本ミツバチ部門で、NPO法人SCRが西成田地区で養蜂を行う「とみやはちみつ」が**最優秀賞と来場者特別賞**を受賞。

また、国産部門においても、とみやはちみつプロジェクトの「とみやはちみつ」が**ベスト3の優秀賞**に選出されました。



新たな特産品へ 富谷茶復活プロジェクト

市では、かつて富谷の名産として隆盛を極めた富谷茶を復活させるため、2017（平成29）年から市シルバー人材センター等と連携して「**富谷茶復活プロジェクト**」に取り組んできました。



2023(令和5)年9月14日、**富谷茶が日本で75例目となる「味の箱船」に登録**されました。味の箱船とは、伝統的な在来品種や加工食品など、このままでは消えてしまうかもしれない小規模な生産者による食材等を、国際組織のスローフード協会が世界的なガイドラインで選定し、その生産や消費、地域における食の多様性を守ろうという取組です。今後も、**新しい特産品として、在来種の生産量増と商品開発に取り組んでまいります。**



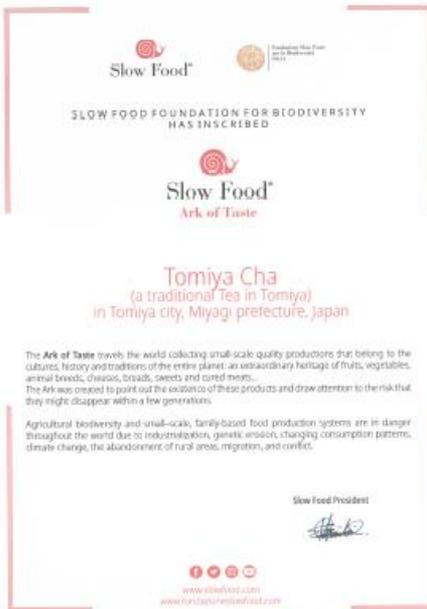
富谷茶

名前は産地である「富谷」に由来します。収穫された茶葉は香りが深く、独特の風味があり、まろやかな甘みとほのかな苦みを感ずる味わいがあります。お茶を淹れると緑がかった黄白色になります。富谷の土壌は茶樹との相性が良く、江戸時代中期ごろの記録「安永風土記」には富谷村にある畑の6割以上は茶畑であったという記述があります。

急速な都市化と農家の高齢化、製茶業者の大量生産化・機械化により生産量が減少。また、富谷茶が在来種であるため、品種改良による収穫量の増加や病害虫に強い品種の導入なども絶滅の危機にさらされた原因の一つです。近年は在来種の価値が再評価され、保護・復元に取り組む、栽培拡大を目指しています。

品種情報
生産者
生産地
産地
産地
産地

Slow Food Japan



マーチングのまち富谷

～音楽を通したまちづくり～



とみやマーチングエコーズ

1990(平成2)年に市民マーチングバンドとして誕生。小学4年生以上で構成され、約100名の団員で活動しています。毎年、マーチングの全国大会へ出場し、優秀な成績を収めています。

とみやマーチングフェスティバル

1989(平成元)年9月に「とみやマーチングフェスティバル」を初開催。市内小学校の金管バンドや市民バンド「とみやマーチングエコーズ」が出場し、東北各地から招待するマーチングバンド等と共に、迫力ある演奏演技が披露されます。



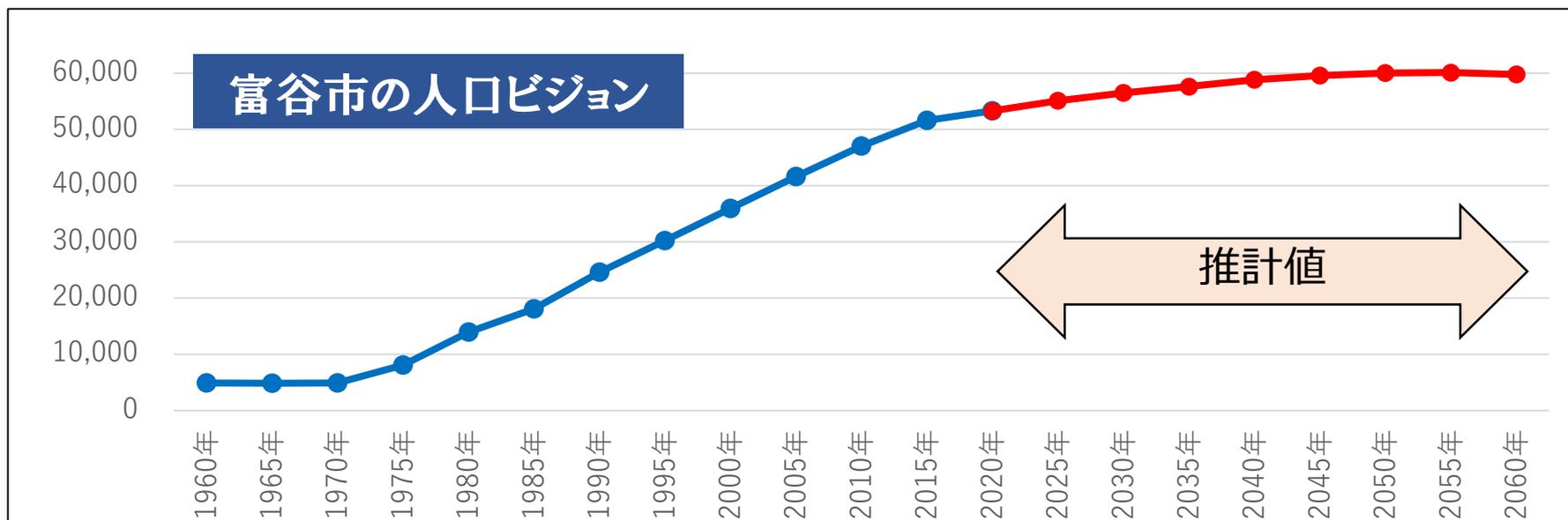
富谷市の将来に向けて

まちづくりの将来像を描く 『富谷市総合計画』策定

まちづくりの将来像 構想期間／平成28年度～令和7年度

住みたくなるまち 日本一

～100年間ひとが増え続けるまち 村から町へ 町から市へ～





まちづくりの新たな3つの視点

令和3年度からは、新たに3つの視点を加えてまちづくりを行っています。

① ウィズコロナ・アフターコロナにおける新しい生活様式

2020年(令和2年)早々に発生した新型コロナウイルス感染症の拡大は、市民の生活を一変させています。今後も国や県との連携のもとで、安全安心の確保、イベントの実施のあり方や日常生活での感染症対策など、新しい生活様式への転換が求められています。



② 子どもにやさしいまちづくりの推進

富谷市は、平成30年11月、子どもが大切に育てられ、健やかに成長できるまちを目指すなど、子どもの権利条約に基づいた5つの柱からなる「**富谷市子どもにやさしいまちづくり宣言**」を行いました。

令和3年4月からは、**子どもにやさしいまち実践自治体**として、「子どもにやさしいまち」「子育てにやさしいまち」を目指して、全庁的に各施策を展開しています。



まちづくりの新たな3つの視点

③SDGs（持続可能な開発目標）の推進

2015年に国際連合で採択された**SDGs（持続可能な開発目標）**は、2030年を目標年度とした、「誰一人取り残さない」持続可能な世界を実現するための17のゴール、169のターゲットで構成された、**日本を含めた世界共通の目標**です。



SDGsでは、**経済、社会、環境のバランスの取れた持続可能な開発を目指しています。**

右図の「ウェディングケーキモデル」は、17のゴールを「経済」「社会」「環境」の3層に分類し、可視化したものです。土台には人々が暮らす「環境」があり、その上に社会活動が成り立っており、社会活動が健全であれば、経済活動も活発化していくということが示されています。





まちづくりの新たな3つの視点

住みたくなるまち日本一

～100年間ひとが増え続けるまち 村から町へ 町から市へ～

4つの基本方針の推進で目指す将来像を実現していきます

基本方針-1
暮らしを自慢できるまち!

基本方針-2
教育と子育て環境を誇るまち!

基本方針-3
元気と温かい心で支えるまち!

基本方針-4
市民の思いを協働でつくるまち!

本市が基本構想に掲げた将来像「住みたくなるまち日本一」や4つの基本方針は、市民や事業者、行政などの関係者が共にまちづくりに取り組むことによって実現される目標であり、**施策分野ごとの取組はすべてSDGsのゴールと関連していることから、これらの取組がSDGs達成に向けた取組に貢献するものと考えています。**

SDGs 17のゴール

		基本方針 1	基本方針 2	基本方針 3	基本方針 4
1	目標 1 あらゆる場所あらゆる形態の貧困を終わらせる		○	○	
2	目標 2 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養の改善を実現し、持続可能な農業を促進する	○	○	○	
3	目標 3 あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する		○	○	○
4	目標 4 すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する	○	○		○
5	目標 5 ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児のエンパワーメントを行う		○	○	○
6	目標 6 すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する	○			○
7	目標 7 すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的なエネルギーへのアクセスを確保する				○
8	目標 8 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する	○		○	
9	目標 9 強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る	○			
10	目標 10 国内及び各国間での不平等を是正する			○	○
11	目標 11 包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する	○	○	○	○
12	目標 12 持続可能な消費生産形態を確保する	○			○
13	目標 13 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる				○
14	目標 14 持続可能な開発のために、海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する	○			○
15	目標 15 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処ならびに土地の劣化の防止・回復及び生物多様性の損失を阻止する	○			○
16	目標 16 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する		○	○	○
17	目標 17 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化させる	○	○	○	○



「住みたくなるまち日本一」の実現を目指して、以下の「**12の重点施策**」を**着実に推進**してまいります。

基本方針 1

暮らしを自慢できるまち！

- 成田二期北工業用地に新たな企業誘致の実現
- アフターコロナの経済施策、安全対策
- 起業・創業・スタートアップ機能強化
- 基幹公共交通システムの整備促進
- 仙台北部道路富谷ジャンクションのフル化

基本方針 2

教育と子育て環境を誇るまち！

- 学校給食費完全無償化
- 市民図書館等複合施設の整備
- 子ども医療費18歳までの完全無償化

基本方針 3

元気と温かい心で支えるまち！

- アフターコロナの経済施策、安全対策（再掲）
- 総合病院の誘致
- 国民健康保険税の引き下げ
- 各出張所での「とみぱす」入金申請の受付
- 重度障がい者等ガソリン利用助成券の交付

基本方針 4

市民の思いを協働でつくるまち！

上記施策の推進にあたり、市民協働・パートナーシップや、健全な行財政経営、防災、環境、DXなどを常に意識しながら実施します。



自治体評価ランキングで軒並み高評価！

● 住みこちランキング2023 (2023.7.12発表)

5年連続 宮城県第1位！ 4年連続東北第1位！

大東建託株式会社 賃貸未来研究所が発表したランキングにおいて、「生活利便性」「行政サービス」「親しみやすさ」「防災」の4要素で東北及び県内1位に、「静かさ治安」においては県内1位に位置付けられています。



<宮城県版>

順位	自治体名	評点
1位	富谷市	71.8
2位	仙台市太白区	67.6
3位	仙台市青葉区	67.2

● 「住みよさランキング2023」 (2023.6.12発表)

東洋経済新報社が発表したランキングにおいて、全国812市・特別区中、

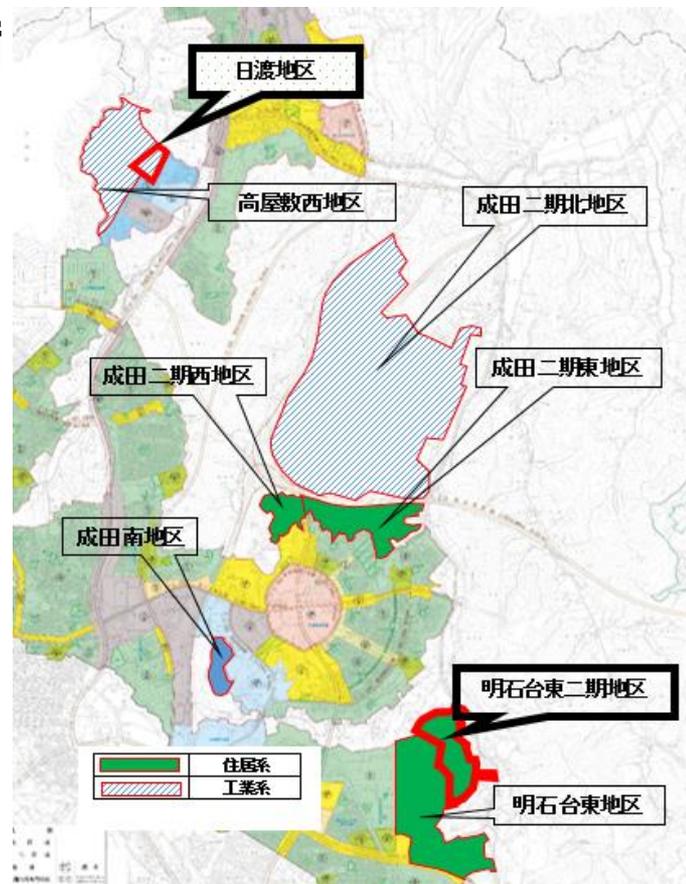
4年連続で宮城県 第1位

- ▶ 「住み続けたい自治体ランキング」株式会社リクルート調査【2022.5.17公表】
県内第1位 (2022年)
- ▶ 「住み続けたい街ランキング」大東建託株式会社調査【2022.11.16公表】
東北第1位 (2年連続 2021年、2022年)

▶ 企業誘致と働く場の確保、住宅地の整備

本市の立地環境や企業立地促進奨励金などの支援制度を積極的にPRし、大学や企業、国や県等に働きかけながら、高屋敷西工業用地等への多様な企業の誘致活動を進め、**市民の雇用機会の拡大**を図っています。

また、産業立地等に伴う将来的な住宅需要を見据え、緑豊かな自然とのバランスを図りながら、本市が人口ビジョンに掲げる将来人口を目指し、**快適で利便性の高い新たな住宅地の整備**に取り組んでいます。



※富谷市国土利用計画に基づき、図面標記の明石台東二期地区、成田二期北地区、日渡地区は第8回線引き見直しにおいて、市街化区域編入の候補地として県へ申し入れている。

【工業系】

【高屋敷工業団地立地企業】

- ・コストコホールセール 富谷倉庫店
- ・株式会社ガイエンス 東北営業所、仙台製造所
- ・日本ファインセラミックス株式会社 富谷営業所

【高屋敷西地区立地表明企業】

- ・株式会社NTKセラテック
- ・日揮ホールディングス株式会社
- ・日本ファインセラミックス株式会社（新工場）

【住宅系】

- ・明石台東地区
令和3年4月～販売開始
- ・成田二期東地区
令和8年の販売に向け造成工事中

▶ 富谷市まちづくり産業交流プラザ「TOMI+(とみぷら)」

旧富谷町役場庁舎を、市内で**起業・創業**を目指す若者、女性、シルバー世代など多様な世代が集う**起業支援等の拠点施設**として、平成30年7月1日にオープンしました。また、民俗ギャラリーを移転し、本市の歴史教育、文化活動の場としても活用しています。

オープンに伴いスタートした、市長が塾長である新しいスタイルの起業塾「富谷塾」では、これまで**50人の塾生が起業**しています。

今後さらに**チャレンジできる環境を整え、新しいビジネス創出を支援**していきます。

6割が女性！

1期生	2期生	3期生	4期生	5期生	6期生
75人	154人	270人	215人	175人	172人



↑ 富谷夜市

↑ 定例対話会

※建物は、国の地方創生拠点整備交付金を活用し、旧役場庁舎を改修

▶ シリコンバレー海外研修の実施

スタートアップ都市づくりに取り組む富谷市で、起業塾「富谷塾」を基盤に、**起業・創業支援、スタートアップ育成に向けた取組の一環として「シリコンバレー海外研修プログラム」を実施**します。

本研修は経済産業省主催の起業家育成・海外派遣プログラム「J-StarX」の1コースであり、**富谷市が加入しているスタートアップの支援に先進的に取り組む自治体で構成される「スタートアップ都市推進協議会」と連携**のうえ、実施するものです。

【プログラム概要】

最先端のスタートアップ・エコシステムでの現場実地研修や、現地キーパーソンと交流するプログラムを一般・上級・超上級の3コースに分けて実施します。

【令和5年度参加者】

富谷塾生 12名

(内訳)：一般コース 10名
上級コース 2名



詳細は市ホームページを
ご覧ください ▶▶▶



▶ 富谷宿観光交流ステーション「とみやど」

かつて宿場町として栄え、富谷市の歴史の原点ともいえるしんまち地区に、令和3年5月15日、「富谷宿観光交流ステーション(とみやど)」がオープンしました。

とみやどには、明治期に牧師・教育者・政治家として活躍した本市の偉人 内ヶ崎作三郎氏の生家を改修し、同氏の功績を広く伝える記念館を整備しました。富谷塾生のチャレンジの場として、チャレンジ館も整備しています。 ※国の地方創生拠点整備交付金を活用

- ・ **オープン5か月で年間目標値であった来場者10万人を達成し、約1年で20万人、R5.9.10に40万人を達成しました。**



テナント名	事業内容	テナント名	事業内容
いい茶や	富谷で採れたはちみつや地元食材を使った料理をNPO法人SCRが提供。	HACCHIME (チャレンジ館)	地元の精肉店「ハチヤミート」が手掛ける飲食店。定食のほか、総菜を販売。
&とみやど エート (チャレンジ館)	富谷の名産品を使用し、自社工場で作ったできたてのジェラートを販売。	富谷宿焼くんぷう	陶芸工房くんぷうが新たに展開するギャラリーショップ。陶芸教室体験有。
中華屋 丹心 (チャレンジ館)	富ヶ丘地区にある人気ラーメン店の2号店。看板メニューは「丹心湯麺」。	EIGHT CROWNS	富谷で採れた無濾過・非加熱の生はちみつやオリジナルブランド品を販売。

▶ 富谷市ビジネス交流ベース「荷宿-NIYADO-」整備

富谷の**新たなビジネス創造の拠点、しんまちエリアの賑わい創出の拠点として、富谷市ビジネス交流ベース「荷宿-NIYADO-」が令和5年6月1日にオープン**しました。

シェアオフィスである「荷宿」は、スタートアップ企業、新規事業・事業拡大を予定する企業、学生起業家などを入居対象にして運営します。



正式名称及び愛称について

富谷しんまち活性化協議会での意見収集等をもとに、地域連携事業として「荷宿」のコンセプト設計などの取り組みの中で宮城大学より提案されました。

正式名称 「富谷市ビジネス交流ベース」
愛称 「荷宿-NIYADO-」 (にやど)



NIYADO

▶ 基幹公共交通システムの整備促進

● 新公共交通システム推進事業

「都市地域総合交通戦略（基本計画）」に基づき、**仙台市泉中央駅との基幹公共交通の整備を目的**として、これまでの地下鉄整備に加えて、ガイドウェイ・トランジットを含むBRT（バス高速輸送システム）整備のための**「次世代都市交通システムの導入可能性調査」を実施**し、これまでの調査成果を踏まえながら、新たな基幹公共交通の整備に向けて、積極的な取組を推進します。

○ 地下鉄整備の調査検討概要（R4）

仙台市泉中央駅から富谷市明石台地区までの約3.4km区間の事業化に向けて、PFI方式による地下鉄整備を想定した場合の採算性を検討。

整備区間：仙台市泉中央駅～明石台地区

（仙台市内に中間駅を1or2つ設置することを想定）

概算事業費：354億～451億円

事業採算性：開業後21～26年での黒字転換可能と試算



▶ 仙台北部道路の機能強化(フル化・4車線化)に向けて

H25.12 仙台北部道路全線開通

- ① 富谷JCTのフル化：輸送拠点への物資輸送路、災害避難経路の機能
 - ② 全区間4車線化：東北自動車道との効果的な物流環境の確保
- 要望を毎年続け…

R3.3 仙台北部道路(一部区間)4車線化事業許可

「利府しらかし台IC～富谷JCT区間(6.6km)」

引き続き、**仙台北部道路の機能強化**に向けて、要望を続けていきます。



▶ (仮称)やすらぎパークとみや整備事業

生涯安心して暮らすことのできる住環境整備の一環として、住民が必要とする墓地需要を満たすための**公営墓地**と市民に親しまれる交流拠点となる**パークゴルフ場**を**一体整備**しています。

■ 施設規模

①公営墓地整備予定基数：**2,000基**（今後30年間の公営墓地需要予測より）

- ・ 3期に分けて段階的に整備予定
- ・ 和式墓地、芝生墓地、個別集合墓地などを予定

②パークゴルフ場ホール数：**18ホール**

■ 候補地

大亀山森林公園の東側隣接地

■ オープン予定

公営墓地 → **令和5年12月**

パークゴルフ場 → **令和6年度**



完成イメージ図

▶ 子どもにやさしいまちづくり実践自治体（国内初承認）

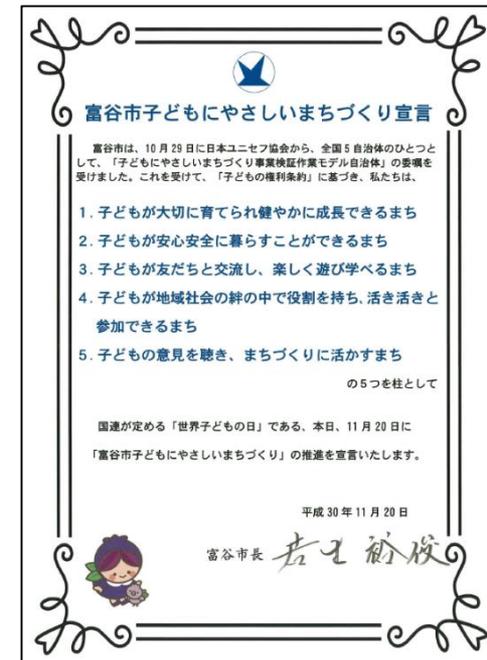
日本ユニセフ協会と連携 2018年より「子どもにやさしいまちづくり」を推進中

2018(平成30)年10月29日、日本ユニセフ協会から**全国5自治体の一つとして「日本型CFC(※)モデル検証作業自治体」**の委嘱を受け、11月20日には、子どもが大切に育てられ、健やかに成長できるまちを目指すなど5項目を示した、**「富谷市子どもにやさしいまちづくり宣言」**を行いました。

検証作業の期間、**すべての職員が子どものことを考えられる**よう意識づけを行ってきました。

2021(令和3)年4月からは、日本ユニセフ協会が示す**CFC実践自治体**として、引き続き「子どもにやさしいまちづくり」を推進しています。

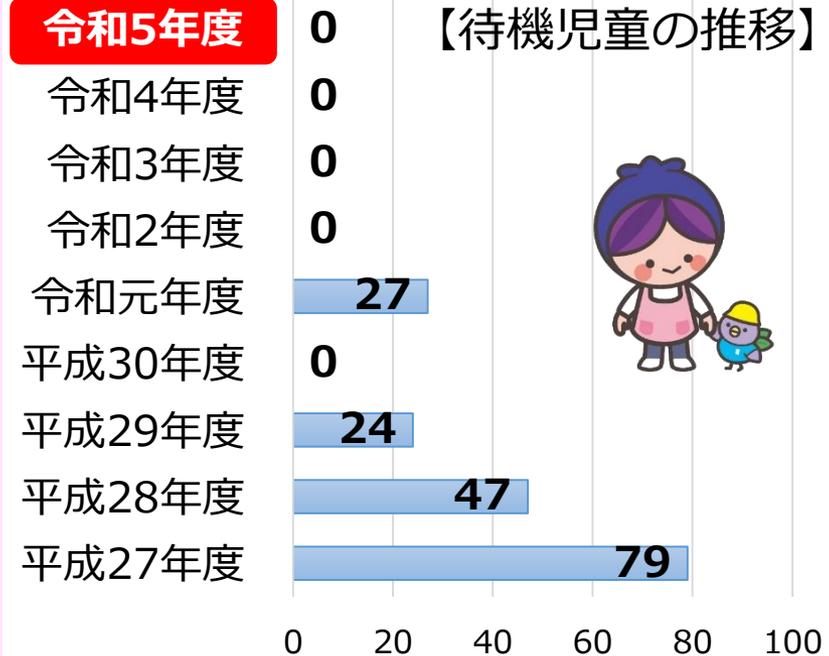
※CFC…Child Friendly Cities & Communitiesの略で
“子どもにやさしいまち”



▶ 保育所における待機児童ゼロを達成(令和5年4月1日時点)

本市が優先的に取り組む事業として、これまで**保育所の整備**や**保育士の確保**など、継続して実施してきました。

各保育園のご協力をいただき、4月1日現在の**保育所待機児童ゼロ**を**4年連続で達成**することができました。



▶ 乳児見守りおむつ等お届け便事業

0歳児を養育する家庭に、**定期的（年4回）に紙おむつ等**を届け、**経済的な負担の軽減を図る**とともに、声かけや見守りの継続等により、**孤立や不安の解消に努めます**。



▶ 県内市で初！学校給食費完全無償化



「子どもにやさしいまちづくり」の更なる推進に向けて、2023(令和5)年4月から市内小中学校に在籍する児童生徒の**学校給食費を完全無償化**し、**子育て世帯の経済的負担軽減を図ります。**

▶ 子ども医療費助成制度を拡充・子ども医療費完全無償化

子育て世代の更なる経済的負担軽減を図るため、**2023(令和5)年10月の年次更新時から**、0歳から18歳年度末までの子どもにかかる**一部負担金を全て廃止し、完全無償化**しています。

引き続き、子どもの適正な医療機会の確保及び子育て家庭の経済的負担の軽減を図っていきます。



▶ 多様な学びの場 富谷中学校 西成田教室開設 東北初となる不登校特例校（文科省指定校）を令和4年4月に開設



西成田教室は富谷中学校の分教室として生徒が学んでいます。校舎は、旧西成田小学校の校舎で、現在は西成田コミュニティセンターとして活用している建物の一部を学び舎としています。

少人数での学習環境や総合的な学習の時間などに重点を置き、生徒たちの実態にあわせた学校生活が送れるように、地域の方々や関係者と連携しながらサポートしていきます。

児童・生徒の学習支援・相談活動を実施「教育支援センター」

これまで運営していた「子どもの心のケアハウス」の事業をさらに充実させるため、令和3年4月より「教育支援センター」を運営しています。

スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどにより、学校に行けない児童・生徒へ学習支援や相談活動、人間関係づくりのサポート、保護者支援、家庭支援を行っています。

▶ 富谷市民図書館等複合施設の整備に向けて

富谷市民図書館・スイーツステーション・児童屋内遊戯施設を複合化した図書館等複合施設の**2025(令和7)年度開所**に向けて、**市民の皆さんのアイデアを盛り込んだ基本設計を踏まえ、より詳細な実施設計業務を進めます。**



【外観イメージ】



【内観イメージ】

【整備概要】

建設予定地：成田公民館東側敷地

施設規模：2階建て

延床面積3,164㎡

※整備にあたっては、国の交付金等も最大限に活用します。

▶ 高齢者・障がい者の外出支援

● 高齢者・障がい者 外出支援乗車証「とみぱす」の導入

2016(平成28)年10月10日から、高齢者・障がい者を対象に、IC乗車証イクスカを活用して、社会参画と安全安心な移動を支援しています。受付体制の充実と更なる利用率向上のため、

10月2日より各出張所での入金申請受付を開始しました。 ※利用限度額は年間2万円



● 福祉タクシー利用券助成 ※2021(令和3)年4月からは、対象者を拡大

2018(平成30)年10月1日から、より重い障がいを抱える方や重度の要介護状態の方に対して、**福祉タクシーの利用料金の一部助成を開始**し、日常生活の利便性向上や社会活動の範囲拡大を図っています。

● 重度心身障がい者等自動車燃料費助成事業

2023(令和5)年度からは、重度の心身障がいがある方の**外出の機会を確保**し、**日常生活の利便及び社会活動の範囲の拡大を図る**ため、**自家用車の燃料費助成**を行います。

▶ 街かどカフェ、ゆとりすとクラブ・サロン

2016年に富谷市誕生と共にスタートした「街かどカフェ」

地域の方を地域住民が支える活動として、地域の交流拠点となる「街かどカフェ」を2016(平成28年)に創設しました。現在、**富ヶ丘北部、富ヶ丘南部、鷹乃杜、ひより台1丁目、明石台二丁目**の**5地区**で週1回開かれ、地域住民が生き生きと交流しています。



23地区で生き生きと地域交流「ゆとりすとクラブ・サロン」



市では、高齢者の外出および住民相互のコミュニケーションを活性化し、心身の健康へつなげることを目的に、町内会と協力して「ゆとりすとクラブ・サロン」の開設・運営を推進してきました。現在、**23地区**で**各地区の地域サポーターが運営し、高齢者がメンバーとして楽しく参加**しています。

▶ 地域と施設の支え合いモデル事業 とみサポ「こころね」 2019年に県内初のモデル事業としてスタート



【5法人(6施設)・社協・市の実施協定締結式】

介護人材の不足が懸念されているなか、地域の福祉施設と住民との支え合いによって、生涯安心して自分らしく生活できる環境づくりを目指して「**地域と施設の支え合いモデル事業 とみサポ こころね**」を始めました。

事業を進めるにあたって、先駆者である仙台敬老奉仕会理事長の吉永馨さんにアドバイスをいただき、富谷に合った事業方式の組み立てに着手しました。市民が市民を支えるという富谷スタイルの誕生です。誰もが住み慣れた地域で、生涯にわたって自分らしい生活が続けられるよう、事業に取り組んでいきます。



▶ 富谷市「ゼロカーボンシティ」宣言

令和3年2月9日、「脱炭素チャレンジカップ2021」が開催され、ファイナリストに選出されていた**本市の水素プロジェクトが優秀賞を受賞**しました。



さらに、将来にわたり、安全・安心に暮らすことができる豊かな環境を未来に引き継いでいくため、**2050年までに二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指し「ゼロカーボンシティ」を宣言**しました。



富谷市「ゼロカーボンシティ」宣言

～2050年 二酸化炭素排出実質ゼロに向けて～

近年、地球温暖化が原因とみられる気候変動の影響により、猛暑や集中豪雨などの自然災害が頻発化、激甚化しています。本市においても、市民の暮らしが脅かされるような災害が身近に迫るなど、現在、まさに気候危機と言わなければならない状況であり、その対策は不可欠なものとなっています。

2015年に合意されたパリ協定では、「産業革命からの平均気温上昇の幅を2℃未満とし、1.5℃に抑えるように努力する」との目標が国際的に広く共有されるとともに、2018年に公表されたIPCC（国連の気候変動に関する政府間パネル）の特別報告書においては、「気温上昇を2℃よりリスクの低い1.5℃に抑えるためには、2050年までに二酸化炭素の実質排出量をゼロにすることが必要」と示されています。

富谷市においては、まちづくりの将来像として掲げる「住みよくなるまち日本一」の実現に向け、環境政策の一環として平成29年度に環境省地域連携・低炭素水素技術実証事業「富谷市における既存物流網と純水素燃料電池を活用した低炭素水素サプライチェーン実証」の採択を受け、水素エネルギーの民生利用に向けた取組を進めております。

将来にわたって、安全安心に暮らすことができる豊かな環境を未来に引き継いでいくため、資源循環、エネルギーの地産地消など地球環境の貢献につながるまちづくりを進め、2050年までに二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」をオール富谷で取り組むことを宣言します。

令和3年2月10日

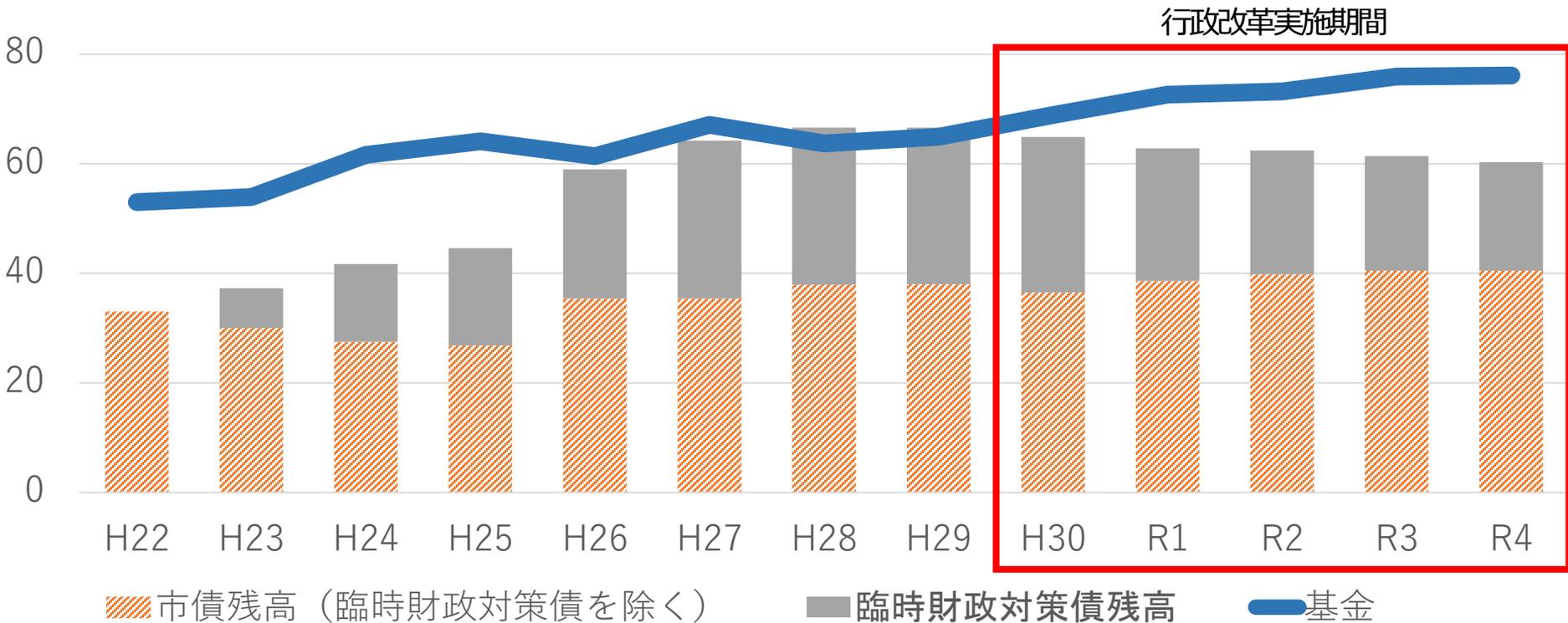
富谷市長 *若日 裕哉*



▶ 健全な行財政経営の推進

平成29年度から着手している行政改革の取組により、一般会計における「市債残高（借金）」の5年連続減少、「基金残高（貯金）」の6年連続増加（5年連続過去最高水準を更新）など、健全な財政運営に努めています。引き続き、持続可能な行財政運営に向けて、健全で透明性のある行財政経営を進めていきます。

貯金（基金残高）と借金（市債残高）の推移



住みたくなるまち日本一を目指して

引き続き、市民の皆様の声が届く市政を基本とし、「富谷市総合計画」・「第2次富谷市地方創生総合戦略」を着実に推進してまいります。



富谷市長 若生 裕俊 職員一同